

令和4年 業種別労働災害発生状況

(令和4年1月1日～12月31日)未確定

浦河労働基準監督署

浦河署管内		令和4年			令和3年[同期]			対前年		本年分
		死亡	休業	合計	死亡	休業	合計	増減数	増減率	割合(%)
全産業計		2 ()	217	219	2 ()	175	177	42	23.7%	100%
業	製造業	()	12	12	()	4	4	8	200.0%	5.5%
	食料品	()	6	6	()	2	2	4	200.0%	2.7%
	木材木製品	()	2	2	()			2		0.9%
	家具・装備品	()			()					
	窯業・土石	()			()	1	1	-1	-100.0%	
	金属・機器	()	1	1	()			1		0.5%
	その他	()	3	3	()	1	1	2	200.0%	1.4%
種	鉱業	()			()					
	土石採取業	()	1	1	()			1		0.5%
	建設業	1 ()	9	10	1 ()	19	20	-10	-50.0%	4.6%
	土木工事業	1 ()	3	4	()	8	8	-4	-50.0%	1.8%
	建築工事業	()	2	2	()	3	3	-1	-33.3%	0.9%
	木造建築業	()	3	3	1 ()	7	8	-5	-62.5%	1.4%
	その他	()	1	1	()	1	1			0.5%
内	道路貨物運送	()	4	4	()	5	5	-1	-20.0%	1.8%
	その他の運輸	()			()					
	陸上貨物取扱	()			()					
	港湾荷役業	()			()					
記	林業	1 ()	1	2	()	1	1	1	100.0%	0.9%
	漁業	()	3	3	()	5	5	-2	-40.0%	1.4%
	卸・小売	()	7	7	()	4	4	3	75.0%	3.2%
	清掃業	()	4	4	()			4		1.8%
	畜産業	()	118	118	1 ()	112	113	5	4.4%	53.9%
	その他の事業	()	58	58	()	25	25	33	132.0%	26.5%

本統計は、労働者死傷病報告(休業4日以上)により作成したもので、死亡災害者数の()欄は交通事故(道路交通法適用)で内数。

令和4年の災害統計(令和4年1月1日～12月31日に発生した災害の統計)は令和5年3月までに提出された死傷病報告から集計いたしますので、これは2月末時点での速報値です。
全産業における死亡及び休業4日以上労働災害(令和4年中に発生した災害)は219件で、前年同期より42件増加となっています。令和5年2月末までに新たに把握した災害は7件で、業種別の内訳は卸・小売業1件、畜産業3件、その他の事業3件でした。事故の型別統計は以下の通りです。

事故の型別統計(軽種馬産業除く)(令和4年1月1日から同年12月31日まで)

	転倒	墜落、転落	はさまれ、巻き込まれ	交通事故(道路)	動作の反動、無理な動作	激突され	切れ、こすれ	激突	その他	総計
件数	28	15	11	3	6	2	1	1	37	104
全体占有率	27%	14%	11%	3%	6%	2%	1%	1%	36%	100%

軽種馬産業において発生した災害は3件であり、災害の型の内訳は落馬1件、蹴られた1件、その他1件です。

災害の型別統計(軽種馬産業)(令和4年1月1日から同年12月31日まで)

	落馬	蹴られた	踏まれた	馬とともに転倒	騎乗中に柵等に接触	引っ張られた	馬に激突された	かまれた	引き馬中に転倒	その他合計	総計
件数	32	25	7	10	7	6	7	1	1	19	115
全体占有率	28%	22%	6%	9%	6%	5%	6%	1%	1%	16%	100%
災害の型別主な傷病名	胸部骨折 頭蓋部打撲	胸部、手指の骨折	手、足の骨折	胸部骨折	大腿骨骨折	肩、手首の骨折	肩、手の骨折	手指の骨折	足の複数部位打撲		

刈払機での除草作業、厩舎から落下、馬運車で移送作業中の災害、馬に起因しない転倒等含む

今月のコメント

令和5年 業種別労働災害発生状況

(令和5年1月1日～2月28日)

浦河労働基準監督署

浦河署管内		令和5年			前年同期			対前年		本年分
		死亡	休業	合計	死亡	休業	合計	増減数	増減率	割合(%)
全産業計		()	24	24	()	24	24			100%
業 種 内 訳	製造業	()	1	1	()	1	1			4.2%
	食料品	()			()					
	木材木製品	()			()	1	1	-1	-100.0%	
	家具・装備品	()			()					
	窯業・土石	()	1	1	()			1		4.2%
	金属・機器	()			()					
	その他	()			()					
	鉱業	()			()					
	土石採取業	()			()					
	建設業	()	2	2	()	1	1	1	100.0%	8.3%
	土木工事業	()	2	2	()			2		8.3%
	建築工事業	()			()					
	木造建築業	()			()					
	その他	()			()	1	1	-1	-100.0%	
	道路貨物運送	()	1	1	()	2	2	-1	-50.0%	4.2%
	その他の運輸	()			()					
	陸上貨物取扱	()			()					
	港湾荷役業	()			()					
	林業	()			()	1	1	-1	-100.0%	
	漁業	()			()					
卸・小売	()	1	1	()	1	1			4.2%	
清掃業	()			()						
畜産業	()	13	13	()	10	10	3	30.0%	54.2%	
その他の事業	()	6	6	()	8	8	-2	-25.0%	25.0%	

本統計は、労働者死傷病報告(休業4日以上)により作成したものです。

死亡災害件数の()欄は交通事故(道路交通法適用)による件数で内数。

全産業における休業4日以上労働災害(令和5年中に発生した災害)は24件で、前年同期と同数となっています。

2月中に把握した労働災害は13件で、業種別の内訳は道路貨物運送業1件、卸・小売業1件、畜産業6件、その他の事業5件でした。軽種馬産業以外における事故の型別統計は以下のとおりです。昨年はおよそ3割が転倒災害でしたが、令和5年もすでに3件の転倒災害が発生しております。転倒災害を少しでも減らせるよう、社内での注意喚起をお願いいたします。

事故の型別統計(軽種馬産業除く)(令和5年1月1日から同年2月28日まで)

	転倒	激突	飛来、落下	崩壊、倒壊	その他	総計
件数	3	2	1	1	4	11
全体占有率	27%	18%	9%	9%	36%	1

軽種馬産業において2月中に把握した災害は6件であり、内訳は落馬1件、騎乗中に柵等に接触1件、蹴られた3件、脚立・はしご等からの落下1件です。

災害の内容別統計(軽種馬産業)(令和5年1月1日から同年2月28日まで)

	落馬	騎乗中に柵等に接触	蹴られた	馬に激突された	引き馬中に転倒	その他(馬の扱い関係)	トラクター等による負傷	脚立、はしご等からの落下	総計
件数	2	2	3	1	2	1	1	1	13
全体占有率	15%	15%	23%	8%	15%	8%	8%	8%	100%

(続紙に続く)

今月のコメント

軽種馬災害防止対策について

災害事例 - 騎乗中の馬との激突について

令和4年に発生した災害において、件数としては多くありませんが、「騎乗中、馬が頭を上げたことにより、馬の頭や首が労働者の顔に当たった」という災害が複数発生しております。

ヘルメットで保護できない顔の部位のけがを防ぐことは困難であり、馬が物見すること、馬が急に顔を上げることを防止するというのも非常に困難です。しかし、このような災害事例があるということを社内で共有し、注意喚起する、対策を検討することで防げる災害もあるかもしれません。ぜひ一度、社内で話し合いの機会を設けていただけたらと思います。

災害事例 - 馬から降りた際のけがについて

先月は馬から飛び降りた際のけがの事例について紹介いたしましたが、令和4年に発生した「馬から飛び降りた際にけがをした」という災害はその1件だけではなく、複数発生しております。また、令和5年になってからも、馬から降りた際に足を痛めたという災害の報告がありました。

このような災害はと同様、根本的に発生をゼロ件とすることは難しいと思われませんが、社内で災害事例を共有し、対策の検討を行い、労使一丸となって災害防止に取り組んでいただけたらと思います。

以下は、令和4年に発生した着地時に足を痛めた災害について、再発防止対策を検討いただいたものです。リスク低減策をとっていたが災害が発生してしまったという事例です。災害の原因について馬、人の観点から多角的に検討いただく際の参考にいただけたらと思います。

軽種馬災害対策好事例（実際に当署に提出された内容を紹介します。）

騎乗中、馬が飛び跳ね、こらえきれず落馬

【災害発生状況】

牧場内角馬場にて、1歳馬に騎乗して準備運動中、常歩から速歩に歩法変換した際に、馬がバッキングして飛び跳ねこらえきれず落馬、右足から着地したが痛みがあり、受診したところ骨折していた。

【原因についての検討】

馬についての対策実施状況

元々腹帯に敏感な様子の馬であったため、曳役をつけて角馬場に入場するなどの対策は行っており、馬についての対策に問題はなかった。

人についての対策実施状況

の馬の特性について騎乗員に共有されており、速歩に移行するときにバッキングする可能性があることも理解していた。2～3回目のバッキングまではバランスがとれたが、こらえきれず落馬したものの、また、落馬時に足から着地したことなど、リスク低減策も実行できたが受傷してしまった。

【再発防止対策】

馬の特性は共有されており、落馬時にも足から降りるなど、リスク低減対策は行っていたが災害が発生してしまったもの。今後も引き続き馬の特性の共有、落馬時の注意事項の周知を続ける。